

NPO エコライフはままつ様

<はじめに>

この度は、ピアノカとリコーダーを多数寄贈していただきありがとうございました。私は現在、マラウイ南部のゾンバ県ソングニ教師センターで活動しています。お礼とともにマラウイ共和国と活動についてご報告させていただきます。

<マラウイ共和国について>

マラウイ共和国はアフリカ南東部に位置する内陸国で、世界遺産に登録されているマラウイ湖が国土の約20%を占め、300種類以上の魚が生息しています。言語は北部トゥンブカ語、南部はチェワ語が主流で、キリスト教とイスラームが多く信仰されています。主食はトウモロコシの粉をお湯で練ったシマに、トマトと油、塩で調理された野菜や豆、魚、肉などの副菜とともに食べられます。このトウモロコシをメイズといいます。日本の米と同じようにさまざまな料理に使われます。マンダチといわれるドーナツに、バナナと混ぜてアフリカンケーキに、発酵させてチブクと呼ばれるお酒に、バス停の路上では焼きトウモロコシとして約10円程度で売られています。世界で最貧国の一つといわれるマラウイですが、人々は明るく陽気で、外国人である私に好奇心を持って話かけてくれます。日本の小学校と中学校にあたるプライマリースクールは無償ということもあり就学率は約90%ですが、日本の高校にあたるセカンダリースクールの就学率は約25%なので、大半の子どもがプライマリー卒業後男性は労働に、女性は結婚して家庭を支えているのが現状です。

「マラウイの子どもたち」



「ゾンバ山」



<配属先紹介と活動報告>

私の任地であるゾンバ県はマラウイ南部の旧首都にあたり、他の地域と比べて緑も多く高地にあるた

め比較的過ごしやすい地域です。配属先はソングニ教師研修センターで、校長会議や教員対象のワークショップを開催、また巡回して授業視察やアドバイスを実施しながら担当校である 14 校のプライマリースクールをとりまとめる仕事をしています。プライマリーでは電気はもちろん机や椅子がない教室がほとんどで、教室が足りず木の下で授業している学校が多くあります。1 クラス 100 人を超える学年もありますが先生の存在は大きく、目上に対するマナーが日常から指導されており、登校時には先生の鞆を率先して持つ風景が毎日見られます。

私はそこで **Expressive Arts** といわれる教科のサポートをしています。この教科は音楽、体育、図工、家庭、演劇、ダンスなどが 1 つの教科になっています。しかしマラウイの教育現場は材料もほとんどなく、大人数ということもあり実習実技の授業がほとんどありません。特にこの教科は実習することで子どもたちが学べることが多い教科です。そこで私は授業のアイデアを提供して現地の先生と一緒に授業をおこない、長期休暇を利用して教員対象のワークショップを開きました。その後各学校で情報が共有されているか、また授業に反映されているかを確認するべく巡回して授業視察をしています。特に音楽の基礎知識を持っている教員がほとんどいないので、残り一年で楽譜が読める教員が少しでも増えるよう活動していきたいと考えています。プライマリーでは毎朝集会があり、そこで国歌を歌っているのですが教科書に楽譜が記載されていないため、歌詞や音程の詳細を知らない児童がほとんどです。今後は寄贈して頂いたピアノで国歌が演奏できる教員を増やし、毎朝伴奏できるよう活動していきたいと考えています。

<最後に>

多数のピアノとリコーダーを寄贈していただき本当にありがとうございました。楽器が職場に届き、段ボールを開けるとすぐに子どもたちが駆け寄り、楽器を手にもって放しませんでした。子どもたちは新しいものに対する好奇心が旺盛で、矢継ぎ早に演奏方法や合奏アイデアを次々と発言して同僚を困らせていましたが、教員も同様に授業で演奏できることをとても楽しみにしています。今後は一人でも多くのマラウイアンが楽譜を読んで演奏できるよう活動していきたいと考えています。頂いたピアノとリコーダーはワークショップを通じて使用させていただき、その後各学校に配布して毎朝の集会で国歌を伴奏できるよう巡回していきたいと考えています。今後ともマラウイへのご支援を宜しくお願い致します。

「練習風景」



「楽器を手にして」

